

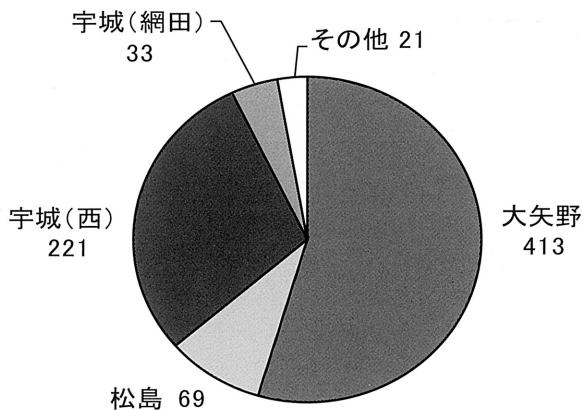
3月末に外科2名の常勤医師が退職。内科では須古医師が3月末で済生会熊本病院に異動となった。4月に1名の外科の甲斐医師を迎えたものの2名減でスタートした。医師の人員不足が懸念されていたが、8月と9月には磯部医師を10月から3月までは再び須古医師を応援に迎え、なんとか乗り切れた1年であった。前年度同様熊本病院および熊本大学医学部附属病院からも、入院診療・外来診療め日当直等の多大な支援をしていただき、地域の皆様に安心して診療を受けていただける病院を維持していくことが出来た。

外来延べ患者数は、38,090人（前年度 37,665人）で、1日平均130人（前年度128人）と僅かながら増加し、新入院患者数も1,823人（前年度1,712人）と増加した。

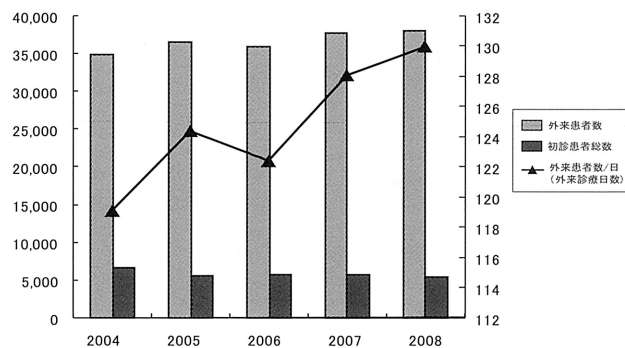
一方、救急患者数は4,910人（前年度 5,740人）、救急車搬入数が757人（前年度875人）と2年連続減少がみられた。救急車の地区別受け入れ状況は図のように、大矢野地区が54%、宇城西地区が30%とその比率に大きな変化はない。

手術数は、前年度に比し約50例増え424例であった。手術以外でも腹膜透析（CAPD）の導入および維持、胃瘻造設（PEG）を含め栄養管理、褥創治療、癌化学療法、緩和医療等にも多職種でチーム医療を行い、地域のニーズに応えられるよう努力した。

救急車の受け入れ状況



年度別外来患者数推移



年度別入院患者数推移

